

半田病院だより

194号

Handa byouin
dayori



新病院長挨拶

病院長 渡邊 和彦



この度、半田市立半田病院長を拝命いたしました渡邊和彦でございます。私は2000年4月に当院に赴任し、脳神経外科医師として診療に携わるほか、医療安全や災害対策、最近では新病院建設、常滑市民病院との経営統合に従事してまいりました。今回、このような職責を担うこととなり、責任の重さに身の引き締まる思いです。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の全国的な蔓延も、第三波がようやく収束しつつありますが、当院では昨年の秋にクラスターが発生しました。外部有識者の指導のもと感染予防には十分気をつけ診療を続けてまいりましたが、今年3月、再び大規模なクラスターを引き起こしてしまいました。職員一人一人の感染対策が不十分であったことは否定できず、多くの入院患者様に感染を広げてしまい関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。再発防止のため職員一同全力で取り組んでまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

この新型コロナウイルスの抜本的な対策としては、ワクチン接種が有効とされており、3月中旬より医療従事者の接種がスタートしています。間もなく高齢者、基礎疾患を持つ方にも施行され、当院も集団接種会場への医師・看護師等の派遣に協力しますが、全国民に行き渡るまでには多くの期間を要することが想定され、感染リスクは当面続きます。

こうした中、当院は、特定感染病床を有する常滑市民病院との緊密な医療連携・機能分担を図っており、これまでも新型コロナウイルス感染症の患者様を引き受けていただくなど、第三次救急医療の機能維持を助けていただきました。全国で多くの医療機関がコロナ対応による医療崩壊の恐れがある中、クラスター中でも重篤患者様を受入れることができたのも常滑市民病院との連携のおかげであると感謝しています。

さて、当院の直近の最大プロジェクトは、「新病院建設」と「地方独立行政法人化による常滑市民病院との統合」であります。2月には常滑市と令和7年4月1日を統合目標とした協定書が締結され、いよいよ全国初の隣り合う自治体による独立行政法人化した2つの病院統合が始まります。先にも述べましたが、新型コロナウイルス感染症に対応する中、両病院で機能を分担し、効率的な診療を行うことが、地域住民の総合的な医療環境を守るうえで、いかに重要であるかが確認できました。既に職員の人事交流を開始していますが、今後、さらに推進し統合時（新病院開院時）には「両病院で安全で信頼される医療」を提供できるよう取り組んでまいります。また常滑市民病院との機能分担を前提とした基本設計も3月に終了しています。2025年春には半田運動公園隣に、機能的で安全で快適な新病院が開院する予定です。是非、期待してお待ちいただきたいと存じます。

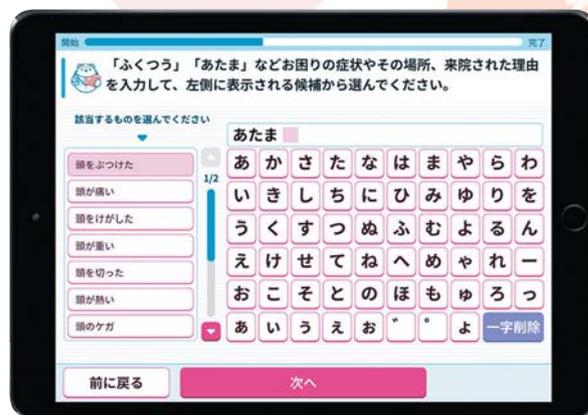
もちろん、当院と常滑市民病院のみで地域医療を支えることはできず、他の医療機関・介護施設等の皆様のお力添えが必要です。緊密に連携、協力していくことが何より重要であると認識しており、そのための仕組み作りにも注力してまいりますので、ご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、当院の理念である「良質な医療を通じて、地域社会に貢献する」ため、職員一同日々努力してまいりますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

Ai問診って何?

副院長 大塚 泰郎

外来では、初診の患者さんに、問診票を記載して頂いています。どのような症状がいつ頃からどのように現れたのか（現病歴）、いままでに経験した病気や現在治療中の病気（既往歴・併存症）があるか、アレルギーがあるか、どんな薬を飲んでいるかなどを伺い、診療に役立てています。紙に書いて頂いていたものを、タブレット端末に置き換え、いくつかの質問に対して選択形式で入力していくものになります。問診の内容は、質問に対する返答によりAi（人工知能）が適切に判断し質問内容を更に詳しくしたり、別の質問を加えたりしますので、それぞれの症状に合わせて千差万別の内容になります。問診の内容は最終的には、電子カルテに表示され、更にはAi（人工知能）があまたの論文と照合し10前後の考え得る病名を提示します。診察の場面では、医師が更に追加の問診や身体診察・各種検査などから情報を得て総合的に診療を行います。診察前は不安な時間です。不安な時間は（実際に長いこともありますが）更に長く感じます。そんな不安な待ち時間を、Ai問診を行いながら医師に伝えたいことを整理する時間に変えることができると考え導入しました。タブレット端末はアルコール除菌をおこなっていますが、コロナ禍で病院のものに触ることをためられる患者さんには、受付に専用のQRコードをご用意していますので、ご自身のスマートフォンで読み取り、Ai問診を行うこともできます。タブレット端末は銀行のATMや乗り物の切符売り場のタッチパネルと同じ操作感ですが、付き添いの方がご本人に代わって操作して頂いても構いませんし、当院のスタッフがお手伝いさせていただきます。内科や救命センターなど一部の診療科から導入し、広めていく予定です。



マイナンバーカードが健康保険証として利用できるようになります

医事課

医療保険の「オンライン資格確認」が今年度開始される予定です。このことにより、マイナンバーカードを健康保険証として利用できるようになります。本稿の執筆時点では、半田病院もその導入に向けた取り組みを進めています。

オンライン資格確認とは、保険資格の確認をオンラインを使って行うことを言います。

今までは、患者さんが持参した保険証の資格が、確認時点で有効かどうかまでは分かりませんでした。これが導入されると、マイナンバーカードのICチップもしくは、健康保険証の記号番号などから、リアルタイムで保険資格の確認が可能となるため、医療機関には、失効保険証の利用などによる過誤請求の低減、患者さんには、これまで保険者に申請が必要であった限度額適用認定証の手続の省略などのメリットがあります。

なお、マイナンバーカードを健康保険証として利用するには、カードを持っていればすぐに利用できる訳ではなく、あらかじめ患者さんがマイナポータルで保険証利用の申込を行うか、新たに病院に設置される機器（顔認証付きカードリーダー）から保険証の利用登録を行う必要があります。

オンライン資格確認の導入後も、引き続き健康保険証は使用できるため、マイナンバーカードがなくても、今までどおり受診はできます。



第1回目の新病院コラム（2020年7月）に、「来年2月まで基本設計を行い、3月には皆さんからその設計案に対してのご意見をいただく『パブリックコメント』の実施を予定しています。皆さん、お楽しみに。」と書かせていただきました。

そして、その基本設計（案）で作り上げた建物の外観図（パース）がこちらです！



すでにご覧いただいた方も多くいらっしゃると思いますが、その概要を簡単にご紹介させていただきます。

新病院建物の概要

建物構造 — 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造（免震構造）

建物規模 — 地上5階、地下1階、塔屋2階建て（ドクターヘリ用ヘリポート有）

延床面積 — 約4万平方メートル

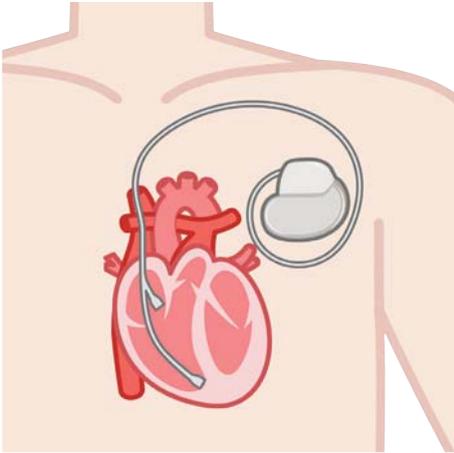
外観は、市内に見られるシックな伝統色と、医療拠点としての清潔感を感じさせる白を配色した品格のある計画としています。

また、建築構造としては、南海トラフ巨大地震のような国内最大級の地震にも対応できるような免震システムを採用し、省エネルギーや2050年に二酸化炭素排出の実質ゼロを目指した「ゼロカーボンシティ」を実現できるように、建築的にも設備的にもさまざまな工夫をしています。

これからも、パブリックコメントで市民の皆様からいただいたご意見なども取り入れながら、令和7年4月の開院に向けて設計を進めていきますので、皆さん、応援してください!!

心臓植込み型デバイスの管理について

放射線技師が加入しました



心臓植込み型デバイスとは

心臓の働きを補助するために体内に植え込まれた装置（デバイス）です。不整脈が原因で生じる息切れや失神を改善できるペースメーカーや、突然死を引き起こす致命的な不整脈に対して電気ショックを出す除細動器（ICD）などさまざまな種類があります。

心臓植込み型デバイス管理

これらの機器は症状に応じて最適な機能を選択し多くの調整が必要となります。このたび放射線技師が不整脈心電学会の心臓植込み型デバイス認定資格を取得し管理を行うようになりました。医師（不整脈専門医）をはじめ多職種で業務を担うことでこれまでよりも迅速に安全な医療が提供できるようになります。

業務内容はデバイス植込み患者さんが外来受診された際に行う状態確認の他、MRI撮影時や電気メス使用時の設定確認及び変更、また下記に説明の遠隔モニタリング管理などがあります。

デバイスに関する質問や相談がありましたら専門的な知識を有したスタッフが対応いたしますのでお気軽にご相談ください。



遠隔モニタリング管理

デバイスからデータの送信を行うことで機器の不具合や身体状態の変化を外来受診せずに把握することが可能です。新規で植え込みされるほとんどの方で導入されるシステムで、不具合や異常を認めた際に送信されるアラート（警告）を確認します。注意点は自宅に郵送される送信機を寝る場所の3メートル以内に電源を接続し設置していただく事と、送信機から送信されたデータを翌日確認するため緊急に対応しているシステムではないということです。ただし、外来受診のみの対応と比較して不具合や状態変化に早期に対応、介入ができるため1年に1～2回の通院で安心して生活していただくことが可能となります。





採用予定日 令和4年4月1日

(看護師・助産師については、①令和3年7月1日、②令和3年10月1日、③令和4年1月1日採用も同時募集)

募集職種、人数、試験日

職種	採用予定人数	採用試験日	申込方法	受験資格
助産師 看護師	40名程度	①5月16日(日) ②8月6日(金) ③10月22日(金) ④1月14日(金)	提出書類を以下の日程、場所に本人が持参。 ①4月23日(金) 13時30分～17時 場所：半田病院2階 第1会議室 4月24日(土) 9時～12時 場所：半田病院2階 第1会議室 ②7月21日(水) 13時30分～17時 場所：半田病院2階 多目的ホール ③10月15日(金)13時30分～17時 場所：半田病院2階 第2研修室 ④1月7日(金) 13時30分～17時 場所：半田病院2階 第2研修室	①～④ ・令和4年3月までに助産師免許または看護師免許を取得済みもしくは取得見込みの方で昭和37年4月2日以降に生まれた方 ①～③の令和3年度内採用の方 ・助産師免許または看護師免許を取得済みの方で昭和36年4月2日以降に生まれた方
薬剤師	3名程度	一次試験 5月16日(日) 二次試験 5月28日(金)	提出書類を4月28日(水)までに半田病院管理課に提出。(※郵送の場合必着) 受付時間は、月～金曜日の8時30分～17時15分	・昭和37年4月2日以降に生まれた方 ・各免許証または資格証を取得済みの方 ・令和4年3月までに各免許証または資格証取得見込みの方
放射線技師	3名程度			
言語聴覚士	1名程度			
事務職 (診療情報管理士)	1名程度			
事務職 (一般事務)	3名程度	【A日程】 一次試験 5月15日(土) 二次試験 6月11日(金)	提出書類を4月28日(水)までに半田病院管理課に提出。(※郵送の場合必着) 受付時間は、月～金曜日の8時30分～17時15分	・平成6年4月2日以降に生まれた方で、大学院・大学・短期大学を卒業または令和4年3月までに卒業見込みの方
		【B日程】 一次試験 10月9日(土)、 10日(日) 二次試験 10月22日(金)		

提出書類 職種によって異なりますので、半田病院ホームページ内採用情報の「令和3年度半田市立半田病院採用候補者試験実施要項」をご覧ください。

※一般事務は免許証や資格証の取得要件はありません。

※その他、詳しくは半田病院ホームページ内採用情報に掲載しております。右のQRコードを読み取り確認してください。



問い合わせ 半田病院管理課 ☎0569-22-9881 Eメール byouin@city.handa.lg.jp

●●●ヘルスプロモーション講座●●●

地域の皆さんの健康支援・増進を目的として、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、歯科衛生士等様々な職種で構成されている「ヘルスプロモーションチーム」が担当し、「いきいき健康講座」を毎月開催してました。しかし昨年度は残念ながらコロナ感染の拡大防止のため病院玄関ホールで行っていた健康講座の開催を中止致しました。今年度は半田病院YouTubeから様々な講座や情報を発信していく予定です。開設した際は是非のぞいてみてください!!

引き続き小人数からでも団体様への出張講座は随時受付をしています。出張講座は半田市保健センターの「はんだ健康マイレージ」対象事業です。感染対策を行いながら実施をしていきます。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。詳細は半田病院ホームページをご覧ください。

問い合わせ先 半田病院 看護局

半田市立半田病院 広報部会 (事務局 管理課)

〒475-8599 半田市東洋町2-29 ☎(0569)22-9881 FAX(0569)24-3253
Eメール byouin@city.handa.lg.jp URL <https://www.handa-hosp.jp>



ホームページ



フェイスブック